

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>母体組織の「やさしく命を守る」という理念に加え、地域に密着したサービスに心がけている</p> <p>地域密着型サービスとしての役割を目指し、理念をより明確にしていきたい</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		<p>今年度事業計画で、理念について話し合い、職員一人ひとりに事業計画書を渡している。また職員会議や日々の中で、理念や方針にそった話し合いを持つよう心がけている。毎月理念に基づいた目標の評価を行っている。家庭的なホームづくりや利用者一人ひとりが役割を持ちながら生活できるように取り組んでいる。</p> <p>全職員が理念を共通認識でき、理念をより具体的に実践できるようにしていきたい</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>運営推進会議で、家族や地域の方に理念や基本の方針、具体的な取り組みについて説明し、理解して頂けるよう取り組んでいる。</p> <p>理念をわかりやすく伝え、今後も理解して頂けるよう取り組んでいきたい</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>外出時出会った人には挨拶を心がけている。ホーム近くの草木などを見に訪れた人には、こちらからお声かけし、ホームの中に立ち寄って頂いてもよいことを伝えている。</p> <p>いつでも気軽に立ち寄ってもらえるような、日常的な付き合いができるよう努めたい</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>地域の方にボランティア活動で関わって頂いている。地域の祭りやホームの行事のお誘いなど、交流を行っている。</p> <p>地元の人々との交流を積極的に行うよう努めたい</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>認知症高齢者の口腔ケアについて、地域の事業所を対象に研修会を開催した。</p>		<p>「安心して暮らせる町づくり」を地域住民と一緒に考え、取組んでいきたい</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価を全職員で取り組むことで、日々の振り返りや見直しができ、改善することが具体的に理解できてきた。</p>		<p>全職員が評価の意義をより理解し、改善に取り組んでいきたい</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回必ず開催し、報告や情報交換、率直な意見をもらい、サービスの向上に活かしている。</p>		<p>自己評価内容の説明と外部評価結果の公表を行い、評価の効果をより高めるよう、取り組んでいきたい</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事例困難ケースについて、市町村担当者や地域包括支援センター職員に相談し、ともに課題解決を図っていくよう取り組んでいる。</p>		<p>市町村との関わりを積極的に持つようにし、地域サービスの推進に努めたい</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>全職員に対しては出来ていないが、管理者や職員は学ぶ機会がある。資料などを準備し活用できるようにしている。法人内のケースワーカーとの連携をとっている。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人内で対策委員会が設置されていて、学ぶ機会がある。管理者は以前高齢者虐待防止センターに関わる機会があり、虐待が見過ごされる事のないよう注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>全職員が虐待について正しく理解し、防止に努めたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>職員一人ひとりが入居者の訴え、言葉に傾聴するように努め、意見、不満、苦情を全職員で話し合い、解決できるよう取り組んでいきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		<p>報告はより敏速に、丁寧にお伝えし、安心して頂けるように努め、信頼関係を築いていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>運営推進会議に家族の出席人数が増えてきたので、家族会の発足を検討していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>職員一人ひとりが運営を考え、意見が言えるような雰囲気を作り、意見や提案は、出来る限り取り入れ、反映させるように努めたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>入居者の生活の時間に応じて、柔軟な勤務調整が出来るように努めたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	働きやすい職場作りが出来るよう、職員と話し合う機会を設け、出来るだけ離職を必要最小限に抑えるよう、環境作り心がけている。異動は必要最小限にしている。		働きやすい、やりがいのある職場作りに努力していきたい。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に研修の機会を確保するように努めている。研修の内容を伝達研修やレポートなどで、職員に伝えるようにしている。		出来るだけ多くの職員が、研修を受けれる機会を確保していきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	堺市南区内の事業所連絡会、堺市全体の事業所連絡会を定期的に行い、情報交換や勉強会を行っている。		連絡会で得た情報を有効に活用し、サービスの向上に努めたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事中に時間は短い、入居者から一旦離れ、休憩を取れるようにしている。有休を希望する時は、勤務を調整し、出来る限り休みが取れるようにしている。母体組織で、月1回心理カウンセラーが職員のストレスに対して、心理療法を行っている。		職員の意見交換が積極的にでき、良好な人間関係が形成できるよう、職場環境作りに努力していきたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人ひとりの努力や実績を把握し、評価するよう努めている。職員個々に目標設定し、仕事に取り組むようにしている。		職員の日頃の努力、仕事に取り組む姿勢を、常に正しく評価し、職員にフィードバックし、向上心を持って働けるよう配慮していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご自宅に伺ったり、ご来訪して頂いたりし、よくお話を聴き、出来るだけ馴染みの関係が出来るように努めている。</p>	<p>入居までに出来るだけ連絡を取り、必要時訪問も行き、馴染みの関係ができるよう努めたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>話しやすい雰囲気作りを心がけ、お話をよく聴き、家族の思いや不安を受け止めるよう努力している。入居までに出来るだけ連絡をとり、状況をお聞きしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>状況に応じて、必要なサービスの情報提供を行ったり、他の事業所へ連絡を取るなどの対応をしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前にご来訪頂き、お部屋やホーム全体をご案内し、出来るだけ納得して頂けるよう心がけている。入居前に何度も訪問して頂いてもよい事やリビングで他入居者と過ごして頂いてもよいことをお伝えしている。</p>	<p>安心して生活できるような、雰囲気作りを、全職員で常日頃から心がけたい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者と一緒に家事を行ったり、様々な生活の場面の中で、共に笑ったり、時には意見を交わしたり、入居者の方の経験から教えて頂いたりしている。</p>	<p>共に生活し、同じ時間を過ごす中で、支えあう関係を大切にしていきたい。入居者から学ぶという姿勢を忘れないようにしていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族にいつでもご来訪頂けるよう、時間の制限は無く、ご来訪して頂きやすい雰囲気作りを心がけている。行事への参加を常にお誘いし、出来るだけ本人と共に過ごして頂く時間を作っている。本人の生活について家族、職員と一緒に考えるようにしている。		家族に報告や連絡を蜜に行い、共に考えよりよい関係を築いていけるよう努力したい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族の関係を理解するよう努め、本人と家族の関係が途切れないように支援している。		本人の日頃の様子をいつも家族に伝え、本人と家族の関係がより良く継続出来るよう努めている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族からお話をお伺いし、馴染みの生活が継続出来るように心がけている。家族以外のご来訪も特に制限等は無い、		馴染みの場所への外出や馴染みの人に会いに行きたい等の希望があれば、柔軟に対応していきたい。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症のレベルが入居者同士のトラブルを招くことも多々あるが、職員と一緒に入居者同士が関わりを持ち、家事やゲームを一緒に行うことが出来ている。時には職員が介入しなくても、和合が出来たり、助け合う姿も見られる。		入居者が心身共に孤立することが無いように努めたい。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても必要に応じて、病院やサービス事業所、地域包括支援センター等連絡を取っている。入院先にお見舞いに行き様子をお伺いしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人ひとりの希望や気持ちを把握するように努め、困難な場合は本人にとって良い方法を、家族と一緒に考え取り組むように努力している。</p>	<p>本人の思いを全職員で受け止めることが出来るよう努めていきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に本人、家族からお聞きし、さらに信頼関係を築いていく中で、徐々に聞かせて頂くよう努めている。入居前のサービス利用の様子を事業所やケアマネージャーから情報収集するようにしている。</p>	<p>職員間で情報を共有するように努めている。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居者一人ひとりの状態の把握に努め、申し送りや記録で情報を共有している。</p>	<p>職員で情報を共有し、会議で検討を行い、本人の状況を客観的に判断し、総合的に把握できるように努力していきたい。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議を実施し、本人、家族、主治医など必要な関係者と話し合いを持ち、介護計画を作成するようにしている。朝の申し送り時や、日々の業務の中で、職員が意見を出したり、情報交換をする時間を作っている。</p>	<p>本人がより良く暮らすための課題やケアのあり方について、職員が常に意識しながら、日々関わりを持つよう努めたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリングを行いながら、状態に変化があれば、計画の変更を行っている。随時サービス担当者会議を行っている。</p>	<p>常にモニタリングを行い、新たなニーズを見逃さないように把握し、状況に即した計画の変更を随時確実に行っていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践等を記録し、職員間で情報を共有し、計画の見直しに活かしている。		職員一人ひとりの気づきや工夫の記録が出来ていないことがあるので、情報の共有を徹底し、介護計画の見直しに活かすようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急な外出や外泊、買い物付き添い、受診援助など、本人や家族の希望には、出来る範囲で可能な限り対応するようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方がボランティアで、入居者と一緒に余暇を楽しめるように支援してくれている。消防署の協力で、災害時の訓練を定期的に行っている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	車椅子や靴の購入時、福祉用具サービス事業所と連携を図り、サンプル品を取り寄せたり、試乗を行い購入できるように支援している。口腔ケアについて、法人の歯科衛生士と協働して行っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センター職員がメンバーとして参加してもらい、助言や意見をもらっている。虐待事例があった時に、地域包括支援センター職員、市町村職員と協働し問題解決に取り組んだ。		本人の意向や状況に応じて連携を図り、協働できるよう取組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関で医療が受けられるように、通院や往診の援助を行い、健康管理を行っている。かかりつけ医と連絡を密にし、病状の悪化を予防するよう心がけている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医の往診を月1回受けており、認知症の進行や状態について、相談し指示や助言をもらっている。		認知症について医師と勉強会を行う予定で、より良いケアにつなげられるようにしていきたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制をとり、定期的に看護師の訪問があり、日常の健康管理を行い、気軽に相談できている。又かかりつけ医のクリニックからも看護師が訪問し、必要に応じて医療が受けられる体制になっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院に限らず、入院先の病院と連絡をとり情報交換を行い、入居者が安心して過ごせるよう、又早期退院が出来るよう支援している。家族とも連絡を密に取り、家族の不安が軽減できるよう、よき相談者となるように努めている。		かかりつけ医とホームで可能な治療について検討し、出来るだけ早い退院が出来るように、入院先の医療機関、かかりつけ医と連携を図り支援していきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療面、栄養面、介護面での状態の悪化が見られた場合は、かかりつけ医、家族と話し合いを持ち、対応を検討している。		本人、家族の希望に出来る範囲で、可能な限り対応できるよう支援していきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族、かかりつけ医と相談を密にし、対応できること、困難なことを説明し、可能な限りホームで生活が出来るよう支援している。		重度や終末期の入居者に対して、対応が可能なこと、困難なこと、不安なことを職員で話し合い、本人、家族の希望に出来るだけ副うことができるような体制を整えていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前のケアマネージャーと連絡をとり、アセスメントシートやケアプラン等情報を得ようとしている。又退居時には転居先の機関に情報提供を行い、住み替えによるダメージを出来るだけ防ぐよう努めている。		本人、家族に関わるケア関係者と連携を図り、出来るだけ馴染みの生活が継続出来るよう努力していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については守秘義務を守り、記録等の保管取り扱いには注意している。接遇について職員に研修を行い、常に言葉かけには注意を促している。		全職員が個人情報保護について周知徹底できるよう今後も努めたい。入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる事のないよう、常に職員間で注意を払っていきたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ話を聴く機会を作り、ゆっくりと説明し、理解して頂けるよう努めている。意思表示が困難な入居者には表情や行動で理解するよう努めている。		入居者一人ひとりの認知症の進行や状態に合わせた対応ができ、自己決定が出来るような声かけや支援を行っていきたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者に合わせたペースを心がけているが、職員の都合や日課が優先してしまっていることもある。		入居者の希望に沿った、個別援助を心がけていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者、家族の希望を聞き、ボランティアの訪問美容を希望される場合は、髪型の希望を美容師に伝え行っている。外出時等おしゃれができるよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日3食を台所で作り、職員も同じものを一緒に食べている。食事の準備や片付けは入居者の出来ることを職員とともにやっている。献立は職員が考え、入居者のリクエストに答えたり、出来るだけ旬の素材で季節感が味わえるように工夫している。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やタバコの希望は現在は無いが、希望があれば柔軟に対応を考えていきたい。飲み物は出来るだけ好みの物をお出しするようにしている。		
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を決めてトイレ誘導をしたり、トイレのサインを把握し誘導したり、出来るだけトイレで排泄できるように支援している。状態に応じてパッドや紙パンツの変更を検討している。		出来るだけ排泄が自立できるよう、細かく観察し職員で情報を共有していきたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯を一樣決めて行っている。一人ひとりの状況や希望に沿って出来ている時もあるが、十分には対応できていない。		原則的には1日置きの入浴であったが、夏場は汗をかかれるので、毎日シャワーをして頂けるよう取組を始めた。出来るだけ希望に応じた対応ができるよう努力していきたい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者のペースに合わせて、休息したり、眠れるよう支援している。夜間認知症の周辺症状や不安なことがあり眠れない時は、訴えを十分に傾聴するよう心がけている。		入居者が安心して過ごせる環境作りを、心がけていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族より生活歴をお聞きするように心がけ、一人ひとりの楽しみが見出せるよう、又生活の中で役割が出来るよう支援している。行事や個別に外出を行い、気分転換ができるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持ち、公衆電話を掛けておられる入居者はいるが、殆どの入居者はお金を所持していない。		買い物時に、ご自分で支払って頂ける機会を設けていきたい。お金の所持について家族とよく話し合いを持つようにしていく。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物へ出掛けたりしているが、一人ひとりのその日の希望にそってはできていない。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間を通じて、外食や日帰り旅行など企画し、家族もお誘いしとにも出かけられる機会を作っている。		入居者一人ひとりが行ってみたい場所に、個別に行けるような支援を考えていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば、随時して頂いている。年賀状を書いて頂く様にお勧めしたことがあったが、嫌がる方もおられ、希望されることが殆どない。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間を制限せず、いつでも来て頂いて良いことを伝えている。職員は笑顔で挨拶を心がけている。お茶やお菓子をお出して、ゆっくりと過ごしていただけるよう声かけをしたり、畳の部屋も自由に使ってもらおうようにお勧めしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしてはいけないことは理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		全職員が周知徹底し、身体拘束をしないケアを継続していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関に鍵はかけていない。自由に出入り出来るようにし、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		今までは一番外側の門だけに鍵をかけていたが、最近開放するようになった。家族の中には不安に感じている家族もあるようなので、話し合いの機会を作り、理解と納得を得ていきたい。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はリビングで過ごす入居者が多いので、所在や様子を把握しやすい、夜間は2時間毎の巡回と状態に応じて見守りを行い、安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員が見守りが出来る状態で、刃物や針、洗剤など入居者の身近に置いて使用しているが、夜間など職員の見守りが十分に出来ない時は、鍵のかかるところで保管している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットや事故報告があった場合は、職員で検討し、再発防止に努めている。転倒、窒息、行方不明に関して、入居者の状態の変化に注意し、事故防止に努める。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時のマニュアルはあり、通報訓練は行っているが、応急手当や初期対応の訓練は行っていない。母体組織でAEDを体験し、緊急時対応の研修の機会がある。		定期的に応急手当や初期対応の訓練を行い、全職員が緊急時に慌てることなく、対応できるようにしていきたい。AEDを購入する予定で、緊急時の対応の研修を繰り返し行っていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は定期的に行っているが、地震、災害時の訓練は行っていない。災害時用に水や食料を備蓄している。		地域の方にも訓練を一緒に行って頂けるよう、協力を得られるように働きかけていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個々の入居者の状況に応じたリスクについて、家族に説明を行い、理解していただき、対応策を家族とともに考えている。		入居者の安全を確保しつつ、抑圧感のない自由な暮らしができるよう、家族と十分に話し合い、よい対策を検討していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者一人ひとりの普段の様子を正しく把握し、体調の変化や異常に気づくように努めている。体調の変化があった場合は、かかりつけ医に連絡し対応している。状態を記録し、申し送りを行い、職員で情報を共有している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認ファイルには、個々の入居者の薬剤情報があり、職員が把握するように努めている。		薬剤情報について全職員が周知徹底するよう努めたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者個々の排便の有無を把握するように努め、水分補給を行ったり、身体を動かすように促し働きかけている。入浴時に腹部マッサージを行う。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後にうがいや義歯の清掃、就寝前の歯磨き、必要に応じて仕上げ磨きを行い、口腔ケアに努めている。歯科衛生士の訪問により、年2回の口腔ケアの支援、職員への助言を行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて個別の食事形態にし、食べやすい工夫をしている。食事量、水分量を毎日記録しチェックしている。カロリーの過不足や偏りがないように注している。体重を毎月測定し、変化に注意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止委員をおき、マニュアルを作り、防止に努めている。感染予防の研修会を行っている。		全職員のマニュアルの周知徹底を行い、防止に努める。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前に必ず、まな板と包丁は熱湯消毒を行う。肉、魚を切るまな板は専用に行っている。出来るだけ食材のストックはせず、前日に購入するように心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門に鍵をかけず開放し、庭に草花を植え家庭的な雰囲気ができるよう工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、四季の変化や町並みが見れるような大きな窓があり、中庭には自由に出入りできるようになっている。テーブルに四季の花を飾り季節感の工夫をしている。日差しの強い時は遮るよう、ブラインドやカーテンがある。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、入居者同士でテレビが見られるように配置している。廊下に椅子を置き、独りになれる場所を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みの物を何でも持って来て頂き、居 心地よく過ごせる環境づくりをして頂いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	空気清浄機を設置し、気温の変化にも注意しなが ら、こまめに温度調整を行っている。空気の換気 にも注意して行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	原則バリアフリーになっているが、玄関には段差 のあるたたきがあり、玄関脇に腰掛けて靴が履け るスペースを設けている。廊下に手すりを設け、 トイレにはL字の手すりを設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレの扉は色付けをして、わかり易いように工 夫している。カレンダーを掛け、毎日今日の日付 に記しを付けたり、色を変えたりしてわかり易い ようにしている。居室の表札は家族が選び、認識 しやすいように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	中庭でベンチを置き、自由に出入りでき、お茶を 飲んだり、植木鉢の花を見たり、体操を行ってい る。外庭には小さな菜園を作り、収穫の楽しみを 味わって頂いている。建物周辺の草花の水やりは 入居者の役割のひとつになっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)